

戦後の税関再開5周年を
記念して誕生した歌

日本税関の歌

日本税関の歌

西條八十 作詞
古賀政男 作曲・編曲

一、ながれる雲よ 舞うかもめ

海なまの路なま 空なまの路なま

新なまに興なまる 日本なまの

栄なまをなまきなまずなまく 前衛なまわれなまら

あ、税関なまの朝風なまに

希望なまかがやく ユニフオーなまム

二、迎なまえて送なまる エトランジなまエ

笑なまみ交なます 愛なまの花なま

国運なまにななまう 貿易なまの

正なましき行なま手なまを 示なますはわれなまら

あ、税関なまの夕月なまに

重なまき使なま命なまの 六なまつボタなまン

三、賑なまはうピアなまよ 滑走路なま

空なま越なまえて 海なま越なまえて

伸なまびゆく平和なま 日本なまの

未来なまの鍵なまを 握なまるはわれなまら

あ、税関なまの旗なまの下なま

勢なまうわれなまらの 胸なまが鳴なまる

・エトランジエ…外国からの旅行者 ・ピア…棧橋。波止場。
(出典：大辞林(第4版))



新なまに興なまる
日本なまの栄なまをなまきなまずなまく

税関には、150年の中で、閉鎖と再開を経験した歴史があります。

太平洋戦争に入り、貿易が衰退したことで、昭和18(1943)年に税関は一度閉鎖しましたが、戦後、外国貿易の復興により昭和21(1946)年に再開しました。

「新なまに興なまる日本なまの栄なまをなまきなまずなまく」は、税関再開5周年を機に昭和26(1951)年に誕生した「日本税関の歌」の一節です。

昭和21(1946)年の日本の貿易額は約63億円でしたが、昭和26(1951)年の貿易額は1兆2千億円まで急成長し、正に「新なまに興なまる日本なま」へと歩み出した時代でした。



日本関税協会に保存されていた楽譜

古賀政男音楽博物館

に

保存されていたレコード盤



伸なまびゆく平和なま
日本なまの未来なまの
鍵なまを握なまるはわれなまら

「日本税関の歌」は、誕生から70年以上経った今でも、税関研修所で実施している新規採用職員研修の修了式において歌われています。

日本関税協会には、作曲者である古賀政男氏の直筆と思われる楽譜が保存されており、その楽譜の冒頭には「元気に明るく」と記載されています。

日本が戦後の復興へと歩みだし、明るい未来への願いが込められた「日本税関の歌」を是非お聴きください。

「日本税関の歌」の誕生経緯

日本関税協会が税関の再開5周年を祝う活動として、全国の税関職員から「税関の歌」を募集したところ、106作品の応募がありましたが、審査の結果、1等に該当する作品はありませんでした。そこで審査員であった西條八十氏が作詞し、当時、西條氏との名コンビで数々のヒット曲を世に放った古賀政男氏が作曲・編曲し、昭和26(1951)年に「日本税関の歌」が完成しました。

オーケストラを伴奏に、昭和の偉大な歌手・藤山一郎氏の吹込みでレコーディングが行われ、昭和27(1952)年にレコード盤が制作されました。



取材協力: 古賀政男音楽博物館

「日本税関の歌」ダウンロード